

受刑者の職業訓練公開

岐阜刑務所 社会復帰理解求める

岐阜市則松の岐阜刑務所は、受刑者の社会復帰後の就労や再犯防止につながるために取り組む職業訓練の様子を、就労支援機関の職員や雇用企業の経営者らに初めて公開した。元受刑者の就労は求人が少ないのが課題で、訓練の実態を見て理解を深めてもらうのが狙い。参加者は受刑者が黙々と作業に打ち込む様子に感

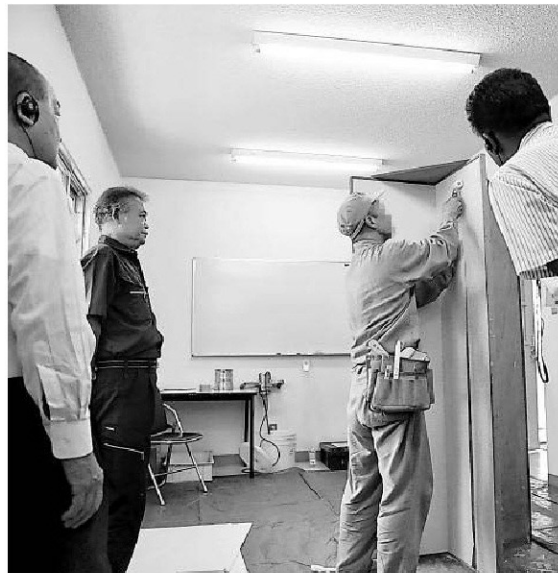
心していた。

岐阜刑務所は主に犯罪傾向が進む男性受刑者を収容する施設。15日現在、20、80代の701人が収容されており平均年齢は52歳。うち、175人が無期懲役刑で服役している。

職業訓練は刑務作業の一環として行われている。飛騨春慶塗を学ぶ工芸科と、左官技能を習得する内装施

工科の2科があり、現在6人が取り組んでいる。見学会では、外部講師の

指導を受けながら、漆の精製や壁紙の張り替えなどを行う様子が公開され、ハロ



職業訓練を受ける受刑者の作業を見学する参加者ら＝岐阜市則松、岐阜刑務所

ーワーク職員や元受刑者を積極的に受け入れている企業の経営者ら約15人が見学した。人材派遣業アイ・ドゥー（岐阜市大菅南）の後藤さとみ社長は「偏見は簡単にぬぐい去れるものではないが、社会全体で雇用の輪を広げ、後押しできれば」と感想を話した。

訓練公開は、雇用する企業側のニーズを探る狙いもあった。齋藤巧所長は「受刑者の就労意欲は非常に高い。関係機関と連携し働く場を整え、再犯防止に結びつけたい」と話していた。